導入事例

マトリクス認証®を使った、デバイスのいらないワンタイムパスワード

SECUREMATRIX®

王子製紙株式会社

多くの実績を持つSECUREMATRIX®とFirePass®でセキュアなリモートアクセス環境を構築

課題

- アクセス元の端末ではなくユーザー個人の特定
- 利用者が理解しやすい感覚的な認証方法
- 一元管理によるユーザー管理負荷の軽減

効果

- SECUREMATRIX®で高度な個人認証を実現
- わかりやすいイメージ認証によりあらゆる層のユーザが抵抗なく利用
- FirePass®を意識せず、SECUREMATRIX®上で一元管理

導入の経緯

王子製紙は、「川上から川下まで」をモットーに、紙を中心とした各種の事業を手がける業界大手の企業だ。流通や加工、関連製品の開発など多くのグループ企業とともに、紙の持つ可能性を追求し続けている。そんな王子グループのIT化を支えているのが、王子ビジネスセンターだ。王子製紙の情報システム部が分社独立し、王子製紙だけではなく、王子グループ全体を見渡す視点を持ち、IT化推進やインフラ整備を進めている。現在はグループ共通で利用できる情報インフラなど基盤の整備を行なっているところだという。

王子ビジネスセンターがSSL VPNの導入を検討し始めたのは、モバイルPCを活用したいという従業員からの要望に応えるためだ。従来、リバースプロキシを経由することでグループ内のオンラインシステムにインターネットからアクセスする経路は用意されていた。しかし、これはモバイルPC用のアクセスポイントではなく、特定の、固定された端末用のものであった。王子グループ内には、専用線などのインフラを持たず、グループのLANに接続されていない小規模の拠点も存在する。そうした拠点から、インターネットを経由してオンラインシステムにアクセスするためのものであった。

モバイル利用の要望が出始めたことで、インターネットからのリモートアクセス構築が課題となった。従来の経路では特定の拠点の特定のPCからのみアクセスを許可することでセキュリティを確保していたため、この仕組みを単純にモバイル用途に転用することはできない。そこでこれらを統合し、よりセキュアなリモートアクセス環境を構築すべく、システムの選定が始まった。

導入決定のポイント

拠点からのオンラインシステム利用にはWebのみでも対応できていたが、モバイル用途ではWeb以外のアプリケーションも利用したいという要望が寄せられていた。これを実現するためにSSL VPNの導入を検討し始めたが、本格的なリモートアクセスの提供を開始するにあたり、セキュリティ確保が最重要課題となった。SSL VPN製品にはそれぞれID、パスワードなどを利用した認証の仕組みが用意されているが、それだけでは足りないと考えたのだ。パスワードの頻繁な変更などでセキュリティを高める方法もあるが、覚え切れないうちにパスワード変更を繰り返すことで利用者が混乱したり、パスワードのメモをPCに貼り付けたりされる恐れもあり、実用的ではないと結論づけられた。

「機能的に単純ではセキュリティに不安が残るが、複雑で使い方の難しいものでは、こちらの意図通りに使ってもらえない恐れがあります。高いセキュリティを確保しながら、操作がわかりやすいものはないかと考えていました」

そう語ったのは王子ビジネスセンターの吉村氏だ。

実際のソリューション選択に当たっては、データセンターを利用するなど、以前からつきあいのあったインテグレータに要件を告げ、機種を推薦してもらったという。インテグレータはSSL VPN装置としてF5ネットワークス社のFirePass®を紹介した。SSL暗号を利用し、Webを含むあらゆるアプリケーションの利用が可能なクライアントレス・リモートアクセス製品だ。合わせて紹介されたセキュリティソリューションが、SECUREMATRIX®だった。

導入企業

王子製紙株式会社

王子製紙株式会社
www.ojipaper.co.jp

商　　号：王子製紙株式会社
代表取締役社長：篠田 和久
創　　業：明治6年
資 本 金：1038億8千万円
従業員数：約4800名

本 社
〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
事業内容：「新技術・新製品・新サービス」を成長戦略として掲げ、紙を中核としてさまざまな製品を開発、提供する。印刷や包装用の身近な製品から梱包材や記録メディアなど、フィールドは広がり続けている。

王子ビジネスセンター株式会社
第2事業本部　本部長付部長
吉村　匡人 氏

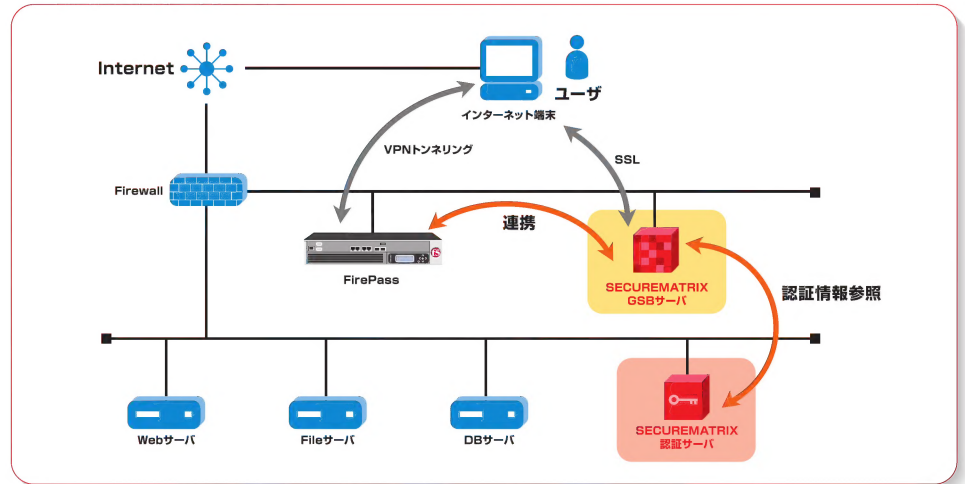
王子ビジネスセンター株式会社
業務本部　運用部 部長　土井　寛幸 氏
業務本部　運用部　山口　聡 氏

導入事例

王子製紙株式会社

実際の導入までの課題

導入は2段階に分けて行なわれた。まずはリバースプロキシをSSL VPNに置き換え、拠点からのアクセスを新システムに移行した。その後、モバイル利用者のためのSECUREMATRIX®のユーザ登録を開始した。FirePass®とSECUREMATRIX®の組み合わせは同じデータセンター内でも運用実績があり、機能性だけではなく安定性についても自信を持っているとインテグレータが薦めた通り、導入から運用開始までに問題らしい問題はなかったそうだ。土井氏は導入時のことを次のように語ってくれた。「すでに実績を持っている製品同士の組み合わせを選択したことが功を奏しました。インテグレータにノウハウもあったのでしょう、非常に順調な滑り出しでした」

■ SSL-VPN接続概略図

現在の運用状況

モバイル利用者が増えていくに従い、FirePass®とSECUREMATRIX®の高い連携性が運用面にもたらす恩恵は大きくなっていった。FirePass®はSECUREMATRIX®の認証結果を受けてアクセス権管理を行なうので、ユーザ管理はSECUREMATRIX®側でのみ行なえばいい。機器ごとに個別管理するようなユーザ管理の仕組みでは、運用面の負担が大きくなるだけではなく、登録ミスや削除忘れを誘発しやすく、セキュリティ強度をも下げることになる。SECUREMATRIX®とFirePass®の連携性の高さが、人為的ミスの可能性をも低く抑えているのだ。

また、運用に携わる山口氏は、管理画面の分かりやすさも運用負荷の軽減に役立っていると指摘した。設定変更や各種の操作を行なう際、同じ画面上に常にガイダンスが表示されるため、設定項目の意味や設定方法について取扱説明書を開く必要がなかったというのだ。運用に携わる山口氏は次のように語る。

「これは自分ひとりが便利なだけではなく、同僚に操作を依頼しなければならない場合や今後あるであろう引継ぎを考えると、非常に大きなメリットです」

運用負荷を低く抑えつつ高いセキュリティを実現した今回のリモートアクセス導入により、今後はより柔軟な企業活動が可能になると期待している。

これまではあまりモバイルコンピューティングが浸透してこなかったという王子製紙。本格的なリモートアクセスも整備され、今後は新たな活動スタイルとして広まっていきそうだ。今後のユーザ数動向はいまだ未知数だが、ユーザ数の増加が直接管理負荷の増加につながるトークン利用のシステムなどとは違い、SECUREMATRIX®なら急激なユーザ数増加にも余裕を持って対応できる。「SECUREMATRIX®の簡単さがグループ内に口コミで広がれば、モバイルユーザがどんどん増えていくのではないかと期待しています」と、吉村氏は今後の展開への期待を語ってくれた。

※記載内容及び、各人の所属役職は取材当時（2006年8月）のものです。

CSE

開発元

株式会社シー・エス・イー

http://www.cseltd.co.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-1 渋谷金王ビル
TEL.03-5469-6026　FAX.03-5469-6037
E-mail: sales@cseltd.co.jp

●お問い合わせ先

SMX5-1301B